

事業名	千葉県男女共同参画地域推進員制度の充実
担当課	男女共同参画課

1 事業の概要

基本目標	I	基本的な課題	1	施策の方向	①	施策番号	3
当初予算額(千円)	2,108			決算額(千円)	1,446		
事業の概要・目的	本県における男女共同参画への取組状況や課題は地域によって異なることから、男女共同参画社会づくりを効果的に推進するためには、それぞれの地域特性を踏まえた取組が不可欠であるため、地域における県民や行政とのパイプ役となり、地域に根ざした活動を行う「男女共同参画地域推進員(以下、「推進員」という。)」を、各市町村から推薦を受けて知事が委嘱することにより、県民、市町村、県が一体となった男女共同参画の推進を目指す。						
数値目標など							
指標名等	千葉県男女共同参画地域推進員設置市町村数						
目標	増加を目指します	実績	42市町村				

2 事業の実施結果

平成26年度末には、42市町村、67名の推進員を委嘱している。 【活動内容】県内6地域で推進員の企画によるフォーラム等を実施(12事業 参加者数1,212名)
--

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか	○	
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
実施結果・効果	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	
★視点3 男女共同参画社会形成への貢献				
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2) 改善点等

<p><改善した点> 「イオンモール成田でのイベント」や「落語による講演」等、幅広い世代をターゲットにした取り組みにより有効な意識啓発ができた。</p> <p><課題・今後改善すべき点> 市町村からの推薦をもとに地域推進員を委嘱しているところであるが、H27.3.31現在、12市町村において地域推進員が未設置である。 また、中高年の女性が多く、若年世代や男性が少ないため、地域推進員未設置市町村に対し、あらゆる機会を通して積極的な推薦を依頼していくことが必要である。</p>
--

事業名	ちばNPO月間(11/23~12/23)の実施 ※「ちば県民活動PR月間」と改称
担当課	県民生活・文化課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	2
当初予算額(千円)	2,521			決算額(千円)	1,193		
事業の概要・目的	より多くの県民にNPOやボランティアのことを知っていただき、さらにNPO・ボランティア活動への参加につなげていくため、「ちば県民活動PR月間(11/23~12/23)」を設けて、この期間内に市町村やNPOと連携・協力して多様な普及啓発活動を県内各地域で集中的に展開する。						
数値目標など							
指標名等	県民活動フェスティバルへの参加人数						
目標	2,000人	実績	2,135人				

2 事業の実施結果

- ①ちば県民活動フェスティバル2014の開催、参加者:2,135人
 ②ちば県民活動PR月間賛同行事として「ちば県民活動PR月間」期間中に開催される市町村・市民活動団体の普及啓発イベントに広報支援を行った。
 賛同市町村・市民活動団体(18市町村・6団体、参加者 約89,913人)

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

★視点1 企画への参画			
No.	チェック項目	チェック	説明
1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか	○	協力を得た市民活動団体の構成員は男女双方とも含まれている。
3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	土曜日の開催であり、双方とも参加しやすい日程とした。
5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	県が設置したブースへの参加割合は女性が上回った(約63%)。
6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	不特定多数の一般県民を対象とした。
★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか		

(2)改善点等

<改善した点>

特になし。

<課題・今後改善すべき点>

男女公平な施策の受益について、引き続き配慮したものとしていきたい。

4 委員意見

NPOやボランティア活動は、ワーク・ライフ・バランスの推進に結びつくものであり、今後も実施して欲しい。さらに、男女共同参画という視点を加えるために、NPOやボランティア団体の構成員の年代別、性別等の把握をして欲しい。ちば県民活動フェスティバルで、来場者によるツリーモニメントの作成をしているが、県民が書いた「地域をよくするためのアイデア」等を単に作業させて終わらせるだけでなく、集約して分類することで男女の意見の違いも見えてくると思われる。

県内各地域で普及啓発活動を展開するためには、千葉、東葛地域以外の地域の開催も検討してはどうか。

事業名	ホームページ、ニュースレター(月刊誌)、メールマガジンを活用した広報啓発
担当課	県民生活・文化課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	2
当初予算額(千円)	0			決算額(千円)	0		
事業の概要・目的	県内のNPO・ボランティア団体の運営や活動を進めるうえで必要な情報を収集し、提供するとともに、県民が自主的な地域貢献活動に参加しやすくするため、NPOやボランティアに関する情報を「ちばNPO情報ネット」やニュースレター、メールマガジンにより発行・配信する。						
数値目標など							
指標名等	ニュースレター、メールマガジンの発行回数						
目標	月1回以上発行	実績	ニュースレター: 12回 メールマガジン: 26回				

2 事業の実施結果

千葉県のNPO関連の事業や講座、協働事業や助成金、イベント、ボランティア募集の情報等を配信することにより、既にNPO・ボランティア活動に参加している人にも、これから参加したい人にも役立つものとした。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか			
実施結果・効果	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	女性、男性を問わず、希望者への情報提供となっている。	

(2) 改善点等

<改善した点>
特になし。

<課題・今後改善すべき点>
また、男女公平な施策の受益について、引き続き配慮したものとしていきたい。

4 委員意見

多くの県民にNPO、ボランティア活動を知ってもらうという視点で情報発信することは重要である。さらに登録者の男女比や年齢を調査することで、幅広い情報提供ができ、県民活動の促進につながると思う。

また、情報の一方的な配信だけでなく、県民の意見欄が活用されるような工夫や活動している登録者の声を伝えるような工夫をすることで、登録者の増加を図ってほしい。

事業名	県民NPO講座・出前説明会の開催
担当課	県民生活・文化課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	2
当初予算額(千円)	0			決算額(千円)	0		
事業の概要・目的	県民や県内の市町村、企業、団体などが主催する研修会等に対して県職員が赴き、NPOに関する基礎知識、活動状況、法制度などについて説明することにより、市民活動を普及・啓発することを目的とする。						
数値目標など							
指標名等	県民NPO講座・出前説明会の開催回数						
目標	25回	実績	23回				

2 事業の実施結果

年間23件開催、参加者合計954人 (内訳) NPO法人設立関係 8件(3件が設立) NPOの基礎知識など 15件
--

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
実施結果・効果	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	—	要請に応じて実施する形態のため、特に把握していない。
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	—	要請に応じて実施する形態のため、特に把握していない。
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	女性、男性を問わず、要請に応じて実施している。
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	女性、男性を問わず、要請に応じて実施している。	

(2)改善点等

<改善した点> 特になし。 <課題・今後改善すべき点> また、男女公平な施策の受益について、引き続き配慮したものとしていきたい。

4 委員意見

出前説明会・講座の実施回数はほぼ目標値に達成しており、NPO法人設立に結びつくなど成果が見られる。今後さらに参加者を増やすために広報を工夫するほか、広く県民が参加しやすいように、参加者の男女比や出前説明会依頼の地域差を把握し、地域格差を埋める努力もして欲しい。また、出前説明会の説明内容に男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスの意識付け等を入れてはどうか。
--

事業名	「民が民を支える地域資源循環システム」の普及促進
担当課	県民生活・文化課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	2
当初予算額(千円)	0			決算額(千円)	0		
事業の概要・目的	県民、企業等が資金・物品・人材等の地域資源をNPOに提供する仕組みである「地域資源循環システム『ちばのWA!』」の活用を広く呼びかけ、当該システムを通じたNPOの情報発信や県民・企業等の資源提供を促進する。						
数値目標など							
指標名等	システムを活用して地域資源(物品)が提供された実績						
目標	—	実績	—				

2 事業の実施結果

平成24年度に実施した県民活動促進事業により構築したウェブサイト等を活用するため、サイト等の使用を希望する団体に使用を許諾することで、民が民を支える仕組みの普及継続を図った。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか			
実施結果・効果	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	—		

(2)改善点等

<改善した点>
特になし。

<課題・今後改善すべき点>
特になし。

4 委員意見

24年度から民間での実施のため評価対象外とする。

事業名	地域づくり情報広場における情報提供
担当課	政策企画課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	2
当初予算額(千円)	0			決算額(千円)	0		
事業の概要・目的	地域活力の向上を目的に、各地域で活動している地域づくり活動団体の特色ある取組を中心に、インターネットを通して情報提供することで、団体相互の交流・連携を促進するとともに、地域活動へ興味がある県民へ向けての紹介の場とすることで、県民の地域活動を活性化させることを目指す。						
数値目標など							
指標名等	-						
目標	-	実績	-				

2 事業の実施結果

地域づくり情報広場に、市町村からの推薦による各地で活躍している地域づくり活動団体を247組掲載した。また、本サイトへの平成26年度のアクセス件数は、89,465件となり、平成25年度に比べ16,491件増加した。掲載団体については、別添のとおり。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)			
実施結果・効果	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	地域づくり活動団体の代表者の性別及び構成員の男女別人数について掲載している。
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	男女の地域づくり活動への参画促進に寄与するため、地域づくり活動団体の代表者の性別及び構成員の男女別人数について掲載している。	

(2)改善点等

<改善した点>

地域づくり活動において、性別の偏りが無い参画を促進するため、地域づくり活動団体の代表者の性別と構成員の男女別人数について引き続き掲載している。

<課題・今後改善すべき点>

女性・男性の参画を更に推進していくため、最新の情報に更新していくことが必要である。

4 委員意見

アクセス件数から高い反応が見られる。地域間交流や市町村との連携も行われており、成果に結びついている。県民の地域活動を活性化させることを目指す事業であることから、他課との連携を検討するなど、多くの県民への広報の工夫が必要である。地域づくり活動団体の代表者の性別や構成員の男女別人数をホームページに掲載しているが、さらに男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの視点も取り入れて、情報提供してはどうか。

事業名	団塊の世代や高齢者等の地域活動への参画支援
担当課	高齢者福祉課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	3
当初予算額(千円)	0			決算額(千円)	0		
事業の概要・目的	団塊の世代や高齢者等の地域活動への参画支援						
数値目標など							
指標名等	-						
目標	-	実績	-				

2 事業の実施結果

<p>学生と卒業生の交流や市町村等との情報交換を支援する9名のコーディネーターを各学園に配置し、卒業生等の相談(104件)、マッチング(130件)、求人情報収集(100件)等の実施により、高齢者が地域で活動していく上での知識や技術、ノウハウの習得についての支援を行うなど、地域活動への参加を後押しした。</p>

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	入学状況
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	男女別なく入学案内を行った。(H27年度入学生男女比6:4)
★視点3 男女共同参画社会形成への貢献				
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○		

(2)改善点等

<改善した点>

地域活動のノウハウの学習や地域活動のリーダー養成のため、平成25年度に設置された地域活動学部と地域活動専攻科において、より専門性、実践性の高い講義を行うため、49講義において講師等の見直しが行われた。また、地域活動に役立つ資格取得のため、「救急員養成講習」、「健康生活支援員養成講習」等、日本赤十字社の認定資格を選択講座に追加した。

<課題・今後改善すべき点>

卒業生と地域ニーズのマッチングを促進するため、各学園に配置されたコーディネーターと市町村との連携強化を図る。

4 委員意見

高齢社会に向けて、講座の見直しを図ったことは評価できる。さらに女性の入学率を上げるために、カリキュラムに女性の興味や希望を反映させたり、参加しやすい曜日、時間帯等を検討したりすることが求められる。

また、卒業後の地域活動の実態把握や途中退学された方の実態把握を行うことで、今後の対策が見えてくると感じる。高齢者の地域活動への参画は、今後重要性を増すものと思われるので、継続と発展に期待したい。

事業名	観光人材の育成支援
担当課	観光企画課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	4
当初予算額(千円)	2,276			決算額(千円)	1,706		
事業の概要・目的	来訪者のニーズに対応できる地域観光の担い手となる質の高い観光人材(観光リーダー)の育成を図るとともに、近年ニーズが高まりつつある着地型観光・体験型観光において、重要な役割を担っている観光ボランティアガイドのスキルアップを図る。						
数値目標など							
指標名等	千葉県総合計画(研修受講者数)						
目標	100人	実績	143人				

2 事業の実施結果

講座の受講者が地域特性を活かした観光連携の指針としてすぐにも地元連携活動を起こせるような実践的な「観光人材育成支援講座」を実施しました。
【全体会議(全2回66名)、分科会(3地域各1回69名)、県外視察(全1回8名)】

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
実施結果・効果	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○		

(2) 改善点等

<改善した点>
特になし。

<課題・今後改善すべき点>
特になし。

4 委員意見

受講対象を幅広くすることで、新しい観光人材の育成につながると思う。また、観光客のニーズが多様化している中、様々な視点から観光人材の育成を検討することが望まれる。今後は、若手と女性の観光人材の育成が不可欠であり、女性等が興味を持つ企画を検討して欲しい。また、オリンピック開催を視野に入れて、老若男女が参加しやすく、「おもてなし」に興味・関心が持てる講座を工夫されることに期待したい。

事業名	商店街リーダーの育成支援
担当課	経営支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	4
当初予算額(千円)	1,700			決算額(千円)	1,396		
事業の概要・目的	次代を担う若手商業者の養成を目的として、商業経営・商店街運営等に関する講座の開催及び塾修了者による「商い倶楽部」の実施により、商業者間のネットワークづくりを推進する取組に対し、事業費を補助する。						
数値目標など							
指標名等	講座回数						
目標	10回	実績	10回				

2 事業の実施結果

若手商業者の育成を目的とした講座「商い未来塾」を10回開催した。女性1名、男性31名、計32名が参加し、女性1名、男性12名、計13名が修了(※)した。
また、塾修了者による「商い倶楽部」を実施し、商業者間のネットワークづくりを推進した。

※全10回の講座のうち、5割(5回)以上の出席者を修了者としている。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか	○	
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)			
実施結果・効果	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○		

(2) 改善点等

<課題・今後改善すべき点>

多くの若手商業者に参加いただくことが経済活性化にとって重要であることから、若手商業者に対する本事業の周知の方法を引き続き検討する必要がある。

4 委員意見

多くの人が参加し、修了するために、参加者のニーズに合ったカリキュラムの検討が必要である。また、女性の参加者が少ないことから女性の視点に立った内容を取り入れていくよう事業団体に伝えていって欲しい。

事業名	男女共同参画の視点に立った地域の防災対策の促進
担当課	防災政策課、消防課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	5
当初予算額(千円)	0			決算額(千円)	0		
事業の概要・目的	地域コミュニティにおける日常の防災対策及び被災時において、女性への配慮が必要であることを、『千葉県地域防災計画』、『災害時における避難所運営の手引き』(平成21年度作成)等において位置づけ、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の確立を図る。 消防団員教育						
数値目標など							
指標名等	—						
目標	—	実績	—				

2 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・国が平成25年8月に策定した「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」の内容等を踏まえ、「災害時要援護者避難支援の手引き」及び「災害時における避難所運営の手引き」について、所要の見直しを検討した。 ・女性消防団員として、防災活動上必要な知識・技術を修得するため、組織制度・訓練礼式・消防操法・防火指導・救急などの科目を実施した。【12時間・女性消防団員14名参加】
--

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか	○	『災害時要援護者避難支援の手引き』の見直しの担当者に、女性・男性双方の職員を配置した。
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)	○	
	★視点2 受益の公平性			
実施結果・効果	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

<改善した点>
特になし。

<課題・今後改善すべき点>
特になし。

4 委員意見

女性の視点から「防災計画」「手引」が作成されており、配慮ある内容であることは評価できる。さらに県民がいつでも見ることができるようホームページへの掲載や市町村職員の実践的な研修を検討してもらいたい。消防活動に関心を持つ女性が増えていることも評価できる。さらに女性が参加しやすい環境の整備をお願いしたい。

事業名	災害対策コーディネーターの養成・活動支援
担当課	防災政策課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	5	施策の方向	⑤	施策番号	5
当初予算額(千円)	1,000			決算額(千円)	995		
事業の概要・目的	災害時にボランティア組織のとりまとめや、行政機関等との連絡調整役を担う災害対策コーディネーターを養成するとともに、災害対策コーディネーターが行う啓発活動を支援する。						
数値目標など							
指標名等	開催回数						
目標	2回	実績	5回(内市町村分3回)				

2 事業の実施結果

- ①災害対策コーディネーター養成事業
県事業として船橋市内で1回、市町村事業として3回(市原市、袖ヶ浦市、千葉市)開催し、194人が新たに災害対策コーディネーターとして登録者され、うち女性登録者は31人であった。
- ②災害対策コーディネータースキルアップ事業
災害対策コーディネーター登録を対象に千葉市内で開催し、68人の受講者のうち女性受講者は16人であった。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
実施結果・効果	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	仕事をしている方も参加しやすいよう、土日を含む3日間で開催している。
5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○		
6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○		
★視点3 男女共同参画社会形成への貢献				
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2)改善点等

<改善した点>

災害対策コーディネーター登録者の地域バランスを考慮し、これまで開催実績のなかった葛南地域の船橋市内で開催した。

<課題・今後改善すべき点>

平成26年度末における災害対策コーディネーターの登録者数は821名であり、このうち女性は約19%の154名という状況である。

平成27年度から、県は新設した地域防災力向上総合支援補助金により、市町村が実施する災害対策コーディネーター養成講座を支援し、地域における開催回数を増やすなど、今後もより多くの女性防災リーダーの確保に努めてまいりたい。

4 委員意見

女性登録者は年々増えており、女性の立場からの災害対策啓発活動拡大が期待できる事業である。ただ、登録者の男女比でみると圧倒的に男性が多く、また、地域格差もある。今後は男女ともに参加しやすい体制を市町村と連携しながら工夫され、男女の差や地域格差が少なくなることを期待したい。なお、今後可能であれば、避難所等での指揮命令組織図を作成して欲しい。